

クロソイ放流技術開発調査－抄録－

山 内 高 博・山 田 嘉 暢

発 表 誌 名

平成5年度放流技術開発事業報告書（青森県他4県）、クロソイ班、平成6年3月、77～89pp.

抄 録

1. 市 場 調 査

(1) 平成5年度の漁獲実態

- 1) 脇野沢村漁協と大戸瀬漁協の昭和61から平成5年度までの月別漁法銘柄別漁獲量を調べた。
- 2) 脇野沢村漁協は増加傾向にあったが、平成5年には、3.4 t と昨年の半数以下に減少した。大戸瀬漁協は横ばい傾向を示し、平成5年には25.9 t であった。
- 3) 漁法別漁獲量では、これまで通り両漁協とも底建網を主体とした小型定置が最も多い。

(2) 天然魚の魚体測定

- 1) 脇野沢村漁協と大戸瀬漁協に水揚げされたクロソイの成長及び全長と体重の関係等を、耳石、魚体測定および市場調査から明らかにした。
- 2) 脇野沢村漁協におけるクロソイの成長について、Von Bertalanffy の成長式から雌雄別の各年齢毎の成長（全長）は次のようになった。
雌：1才；13.0cm 2才；23.2cm 3才；31.3cm 4才；37.1cm 5才；41.2cm
雄：1才；13.5cm 2才；23.2cm 3才；29.7cm 4才；35.6cm 5才；35.9cm
- 3) 大戸瀬漁協におけるクロソイの成長について、Von Bertalanffy の成長式から雌雄別の各年齢毎の成長（全長）は次のようになった。

1才；10.4cm 2才；21.8cm 3才；32.6cm 4才；39.4cm 5才；45.7cm

2. 追 跡 調 査

- 1) 脇野沢村地先において、放流時期の違いによる放流後の分散状況、生残率等を調査した。
- 2) 平成5年9月20日（前期放流群）及び10月19日（後期放流群）にそれぞれ、66,382尾、58,180尾を水深5 mに放流した。
- 3) 追跡調査は、放流点を中心に半径400mの範囲にアイナメ籠を合計10点（50籠）を設置し、放流後1～130日間で計12回行った。
- 4) 前期放流群は水深5 m以浅で67.0%が再捕され、岸沿いに滞留する傾向がみられた。
- 5) 後期放流群は水深10 m以深で80.2%が再捕され、沖側に滞留する傾向がみられた。
- 6) 1日当たりの生残率は、前期放流群が96.24%、後期放流群が96.12%となり、両者はほぼ同様の結果となった。